

伝え合いを通して、自分の将来を考えることができる生徒の育成 —国語科と連携したキャリア教育の実践—

蒲郡市立西浦中学校 教諭 藤井克枝

1 はじめに

平成23年1月に中央教育審議会から出された「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方」の中で、キャリア教育は社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度の育成を目指すものであることが明示されている。これまで職場体験活動の実施をもってキャリア教育を行ったものとみなす傾向が見られたことにも触れ、キャリア教育がさまざまな教育活動を通して実践されるものであることも述べられている。キャリア教育で育成すべき能力として「基礎的・汎用的能力」が具体的に示され、各教科においても、この「基礎的・汎用的能力」を育成するという視点から見直していくことが求められている。

本校と前任校である蒲郡市立大塚中学校は、それぞれ蒲郡市の両端に位置し、どちらも海に面した自然豊かな学校である。ともに全学年2クラスの小規模校で、生徒たちは1小学校1中学校という、小学校からずっと変わらない人間関係の中で生活している。素朴な生徒が多く、落ち着いた学校生活を送ることができている。反面、小学校からの人間関係がなかなか崩せなかったり、初めて出会う人に対して自分から進んで働きかけることができなかったりするなど、新たな人間関係を築くことに消極的な生徒が多いという共通した実態が見られた。社会人として自立していくためには、「人間関係形成・社会形成能力」を高める必要性を強く感じた。

また、中学生は卒業後の進路選択を控えている。自分の個性に応じたよりよい選択をするためには、「働くこと」の意義を理解し、社会の中で自分が果たすべき役割についての認識を深めていきながら、自分の生き方について考える「キャリアプランニング能力」を養っていくことが重要である。

さらに、本年度より完全実施となった中学校学習指導要領の国語科の目標には、「伝え合う力を高める」と記され、「社会生活に必要な国語の能力の基礎を身に付けること」に重点が置かれている。話すこと・聞くことの能力を育成するために指導する内容として、「社会生活の中から話題を決めること」「異なる立場や考えを想定して自分の考えをまとめること」「話の中心的な部分と付加的な部分などに注意し、論理的な構成や展開を考えて話すこと」「資料などを活用して説得力のある話をすること」等が挙げられている。

そこで、国語科の授業を通して自分の考えを分かりやすく伝えたり、相手の話を正しく受け取ったりする「伝え合う力」を育てることで人間関係形成能力を高めるとともに、伝え合う活動を通して、社会の一員としての自分の役割や将来の生き方に対する考えを深めさせたいと願い、本実践に取り組んだ。

2 研究の仮説

国語科の授業を通して、人間関係形成能力と「キャリアプランニング能力」を高めるために、以下の仮説を立てた。

- (1) 国語科の授業において、生徒同士の関わり合いの仕方や互いの取組について振り返る方法を工夫したり、地域を中心とした連携活動を取り入れたりすることによって、生徒の伝え合う力を養い、人間関係形成能力を高めることができるであろう。
- (2) 日常生活や社会における多様な役割や働くことの意義を理解することに結び付くような授業や活動を意図的に設けることによって、「キャリアプランニング能力」を高めることができるであろう。

3 実践の方法

研究の仮説を検証するため、以下の方法で実践を行うことにした。

(1) 授業における関わり合いの仕方に関する工夫の手だて

ア 生徒同士の関わり合いの仕方を工夫する。

(ア) 小グループによる関わり合いの場と全体での関わり合いの場を適切に位置付け、話し合いの形態や方法を工夫する。…**手だてA**

(イ) パネル・ディスカッションにおいて、司会者、発表者、時計係等の役割を分担したり、進行表を配布したりすることで、生徒たちの手で関わり合いが進められるようにする。

…**手だてB**

イ 人に伝える際の支援の仕方を工夫する。

(ア) 視聴覚教材を活用したり、伝え方のモデルを示したりすることで、聞き手に分かりやすく伝える方法を明確に示す。…**手だてC**

(イ) フル原稿ではなく、メモを見ながら発表させる。…**手だてD**

ウ 話を聞く際の支援の仕方を工夫する。

(ア) 話を聞く目的やポイントを明確にする。…**手だてE**

(イ) ワークシートにメモ欄を設け、メモの取らせ方を工夫する。…**手だてF**

エ 振り返りの仕方を工夫する。

(ア) 相互評価をさせ、互いのよさやアドバイスを伝え合う場面を設定する。…**手だてG**

(イ) 活動後に振り返りの時間を設定し、学びの成果を実感させたり、次の活動への目標をもたせたりする。…**手だてH**

(2) 地域を中心とした連携活動を取り入れるための手だて

ア 地域のために働く人や地域の職場で働く人と関わる活動を取り入れる。…**手だてI**

(3) 役割や働くことの意義の理解に結び付けるための授業や活動の工夫

ア 地域に根ざした題材を設定し、身の回りの問題や身近な人の生き方に目を向けさせる。

…**手だてJ**

イ 国語科の授業、総合的な学習の時間、学校行事等を関連付けて生徒の意識の流れを大切にしながら授業を構想する。…**手だてK**

(4) 国語科とキャリア教育との連携を図るための指導案の工夫

ア 留意事項の評価項目について、国語科に関わる箇所は明朝体で示す。…**手だてL**

イ 留意事項の評価項目について、キャリア教育に関わる箇所はゴシック体で示す。

…**手だてM**

4 実践の内容と考察

(1) 平成23年度の実践内容

ア 単元 3年国語科「パネル・ディスカッションで考えを深めよう」(8時間完了)

＜大塚中学校＞

イ 単元設定の理由

3月11日に東日本大震災が起きてから、連日震災に関するニュースが報道された。津波が町を襲う衝撃的な映像は、生徒たちに強烈な印象を与え、震災に対する生徒たちの関心も高い。「映像を見て怖くなった」「自分たちが募金したお金が、早く被災者の人に届いてほしい」「被災者の避難生活は大変だ」など、地震の恐ろしさや被災者の生活に目を向けている生徒がほとんどである。しかし、この震災の教訓を生かし、近い将来起きると言われている東南海地震に備えようというところまでは意識されておらず、まだ身近な問題として捉えられていない面もある。

本単元では、「近い将来起きると言われている東南海大地震に対し、今、わたしたちがすべきことは何か」をテーマに学習を進める。社会の一員として、自分にできることを考えさせたい。話し合い活動としては、パネル・ディスカッションを取り入れる。司会者、発表者、フロアなど、一人一人が自分の役目を果たしながら、全員参加で作り上げる話し合いを通して、地震に対する考えを深めさせたい。テーマに対して、自分が集めた資料を活用しながら、説得力をもって考えを述べられるようにするために、資料の引用の仕方や根拠を明らかにした意見の述べ方を身に付けさせたい。パネル・ディスカッションでは、それぞれが自分の役割を理解した上で、互いの意見をしっかり受け止め、それに絡めて意見を言うことで、効果的に話し合いを進めることができることを実感させたい。

ウ 単元の目標

(ア) 身の回りで起きている社会の問題に関心を持ち、話し合いの進行に協力することができる。

関

(イ) テーマについて必要な資料を集め、自分の知識や調べたことを整理したり、自分の考えをまとめたりして、根拠を明らかにした説得力のある話し方ができる。 **話聞** **書**

(ウ) 互いの意見を自分の意見と比べながら聞き、自分の考えを深めたり、表現に生かしたりすることができる。 **話聞**

(エ) 伝えたい内容の根拠となる資料や他者の考えの要旨を読み取ることができる。 **読**

エ 単元構想【資料1】

オ 授業の実際と考察

(ア) 行事や学活と関連付けた単元構想…**手だてK**

普段、あまり身の回りの社会生活に目が向けられていない生徒たちであるが、平成23年3月11日に起きた東日本大震災に対する関心は高かった。地震発生後、生徒会が行った募金活動では、それまでに行ったどの募金よりも多くの金額が集まった。

職員の一人が、震災発生後一カ月後にボランティアとして石巻市を訪れた。そこで、学活で学年集会を開き、その貴重な体験を生徒たちに伝えた。提示された被災地の写真からは悲惨な状況が一目で分かり、復興が全く進んでいない状況が知らされた。被災地の現状や全国から寄せられた義援金が使われていないことを知り、ショックを受けた生徒が多かった。と同時に、自分たちにできることをも

【資料 1 単元構想】

「パネルディスカッションで考えを深めよう」（全 8 時間）

震災ボランティアに参加した M 先生の話聞こう（学活①）

阪神・淡路大震災について学ぼう（修学旅行・行事）
・人と未来防災センター見学・語り部さんの話

学習の流れ	・手だてと評価
東日本大震災について、感じたことや考えたことを発表しよう	
①東日本大震災について、これまで得た情報を振り返り、感じたことや考えたことを発表し合い、学習課題を設定する。	・大震災後、さまざまな問題点が明らかになってきていることに気付かせるために、大震災について感じたことや思ったことを自由に発表させる。 ・今後、自分たちが考えていかなければならないことに目を向けさせるために、地震に対する備えに注目している生徒の意見を取り上げる。 評 震災について話し合う活動を通して、「課題対応能力（課題発見）」を評価する。手だて I・J・M
近い将来起きると言われている東南海大地震に対し、今、わたしたちがすべきことを考えよう	
②東日本大震災で問題点として挙げられていることについて調べる。	・根拠となる資料を探すヒントとなるように、新聞記事等の資料をいくつか紹介する。 ・夏休みを利用して、より多くの資料を収集させる。 評 根拠となる資料を探す活動を通して、「課題対応能力（情報の理解・選択・処理）」を評価する。手だて M
パネルディスカッションで、考えを深めよう	
③パネル・ディスカッションの方法を理解する。	・パネル・ディスカッションの流れや役割分担を理解させるために、ビデオを見せる。
④調べたことをもとに、自分なりの考えをまとめる。	・資料から引用するときの表現方法や意見の述べ方を押さえる。 評 集めた資料を整理して、自分の考えをまとめることができる。（書く）手だて C・L
⑤⑥同じような意見をもつ生徒でグループを構成し、意見交換を行う。	・パネル・ディスカッションで話し合いが深まるように、各グループごとにパネリストを選ばせ、想定される質問や反論への答えを考えさせる。 評 想定される質問や反論への答えを考える活動を通して、「人間関係形成・社会形成能力（他者の個性を理解する力）」「課題対応能力（原因の追究）」を評価する。手だて A・C・M 評 発表メモを見ながら、自分の考えを聞き手に分かりやすく話すことができる。（話す・聞く）手だて D・L
⑦パネルディスカッションを行う。	・司会者がクラス全員の考えを把握し、論点を絞って話し合いを進めることができるように、事前に座席表を渡しておく。 ・フロアの生徒がパネリストの意見に絡めて発言できるように、メモを取らせる。 評 パネルディスカッションを通して、「人間関係形成・社会形成能力（他者の個性を理解する力・コミュニケーション・スキル）」「話す・聞く」を評価する。手だて B・F・G・L・M
東南海地震に備えて、今、すべきことをリーフレットにまとめよう	
⑧パネルディスカッションを振り返り、一度今すべきことについて再度考え、リーフレットにまとめる。	・話し合いで深まった考えを自分なりにまとめさせるために、全校生徒に向けたリーフレットを書かせる。 評 リーフレットをまとめる活動を通して、「人間関係形成・社会形成能力（他者に働きかける力）」を評価する。手だて H・M

って考えていきたいという思いが高まったことが感じられた。

その後の修学旅行で、神戸市にある「人と未来防災センター」を訪れた。阪神・淡路大震災当日の様子を再現した映像や震災に関するさまざまな展示を見て、阪神・淡路大震災の被害の大きさを目の当たりにした。最後に、語り部さんから体験談を聞く場を設けた。語り部さんから、日頃から防災対策をしておくことが被害を小さくすることにつながることを教えられた生徒たちは、「いつか東海地震が来るから、今自分ができていることをしていきたい」「地震直後に混乱しないように、安全に行動できるようにすることが大事だと感じた」のような感想をもち、地震に対する備えをしておくことの必要性に気付くことができた。

(イ) 地域に根ざした題材の設定…**手だてJ**

学年集会、修学旅行を通して、生徒たちの震災に対する意識が高まったところで、本単元に入った。まず、東日本大震災について感じたことや考えたことや思ったことを自由に発表させた。避難生活を続ける被災者に対する思い、外国の人々からの温かい支援、原発問題など、さまざまな視点から意見が出された。初めは被災者に対する意見が多かったが、「海に近い大塚は、津波は大丈夫なのか」「今からできる準備を考えたい」など、もし自分たちが被災したらという視点からの意見が出された。その意見を取り上げ、「近い将来起きると言われている東南海地震に対して、今何をすべきか」について、これからみんなで考えていこうと投げかけた。

(ウ) メモを基にした意見発表…**手だてC・D**

テーマに対する自分の考えをしっかりとさせるために、夏休みを利用して、東日本大震災を通して分かった問題点について調べ学習をさせた。生徒は、インターネット、新聞などからそれぞれ資料を集めてレポートにまとめた。

それを基に、自分が一番必要であると感じる「今私たちがすべきこと」を考えさせ、意見発表メモにまとめさせた【資料2】。発表原稿を書かせると、それを読むだけの発表になってしまうので、発表メモにし、要点を箇条書きにするようにした。また、「自分が主張したいこと」「主張の根拠」「結論」という大まかな構成が分かるようにし、「東南海地震に対し、今すべきことは～です」など、意見の述べ方のモデルを示した。

要点を箇条書きにさせたことで、集めた資料の中からキーワードを吟味することができた。

(ウ) グループで意見交換する場の設定…**手だてA・F**

パネル・ディスカッションでは、意見発表をするのがパネリストに限られてしまう。全員に発表させる場を設けたいと考え、グループで意見交換し合う場を設定した。グループは似たテーマを選んだ生徒同士で構成した。自分の意見と比較しながら聞くことができるように、【資料3】のようなワークシートを用意し、「共感したこと・なるほどと思ったこと」に項目を絞ってメモをとらせ、グループ内で一番よかった生徒をパネル・ディスカッションのパネリストに選ばせた。

【資料2 意見発表メモ】

★主張の根拠 ※なせ、そのことが、必要なのか。 ※すべきことの理由 ○身を守る方法を知りたければ命をとりうる可能性がでてくるから。 ○津波や地震は避難するときに安全な逃げ方を知らなければいけません。 ★逃げるときはどのくらいな半端な逃げ方をしてはいけないのか ○川の上でいた場合、津波が押し寄せると川が逆流する。川に流されてしまう。 ○また、川に海軍から離れ、各所で高台に上る。安全な場所に行く。 ○避難するときも、避難経路を事前に確認しておく。1階は避けて2階へ。 ○避難するときも、避難経路を事前に確認しておく。1階は避けて2階へ。 ○避難するときも、避難経路を事前に確認しておく。1階は避けて2階へ。	★結論 ※このように、すべきことです。 ※ぜひ、インターネットなどのメディアを使って津波が来たときに身を守る方法を調べておくようにしよう。 (正しい避難場所、正しい避難手段)を知ることが大切。 自分の意見を発表して、自分たちの未来のために行動しよう。	★自分が主張したいこと ※東南海地震に対し、今すべきことは～です。 地震や津波が来たときに身を守る方法を知って置く
--	---	---

のように、他の生徒の意見を踏まえた発言が多く見られた。

4人のパネリストが発表した内容は、「家の耐震について」「緊急地震速報の受信方法」「津波から身を守る方法」「義援金の使い方」であった。話し合いの中で一番盛り上がったのは、「緊急地震速報の受信方法」について発表したパネリストの「地震発生後、情報を集めた方がいい」という意見についてであった。「私が調べた中で、地域の人話を聞いて家に戻ってしまい、津波に遭った人がいたので自分の考えで判断した方がよい」

「気象庁のような専門的なところからも情報は正しいと思う」「気象庁からの情報は正しいと言ったけど、緊急地震速報は当たらないこともあった」等、自分が調べたことを基に、互いの意見をぶつけ合うことができた【資料

【資料6 意見発表をするパネリスト】



6】。また、「津波から身を守る方法」について発表したパネリストの「正しい避難場所を知ることが自分の命を守る」という意見に対し、「大塚は近くに海があるけど、実際に津波が来たらどこに逃げるとよいか」ということも話題になり、切実な問題として考えている姿も見られた。話し合い後の感想の中にも、「耐震グッズをそろえたい」「避難場所を覚えておきたい」など、話題になったことを取り入れていこうとする姿勢が見られた。

パネル・ディスカッションという、みんなでさまざまな意見を出し合う話し合いの形を初めて経験し、【資料7】の感想に「考えが深められるからパネル・ディスカッションは楽しかった」「みんなの主張が聞けてとてもためになった」とあるように、互いに意見を出し合うことで、新たな考えに気付くことができるという話し合うことのよさを実感することができた。

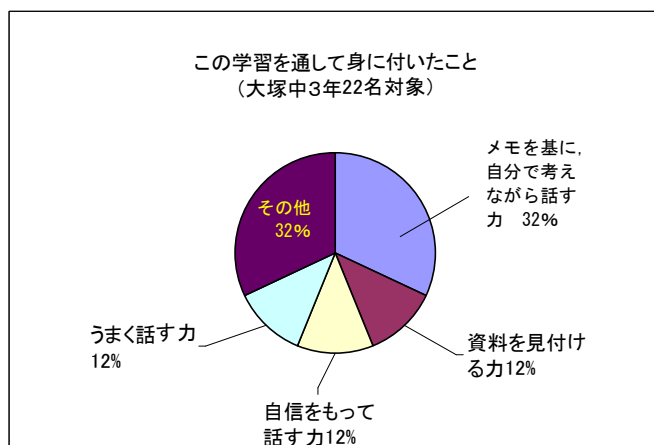
【資料7 パネル・ディスカッションを終えての感想】

- ・パネル・ディスカッションを初めてやって、パネリストだけが討論するんじゃなくて、みんなで話し合えたからよかった。ディベートみたいに賛成か反対を決めるんじゃなくて、考えを深められるからパネル・ディスカッションは楽しかったです。またやってみたいです。
- ・パネル・ディスカッションは、みんなの主張が聞けてとてもためになった。同じ議題に対して違う主張があってとてもおもしろいと思った。

(オ) 単元を終えての振り返り・・・**手だてH**

「この学習を通して、『この力が付いた』『こういうことが分かった』『これに自信が付いた』ということがありますか」という質問に対して、約4分の1の生徒が「メモを基に話す力」と書いた【資料8】。これまで書いた原稿を読む発表が多かった生徒たちにとって、メモを基に発表することができたことは、全体の中で自分の考えを発表することへの自信につながった。そして、より聞き手を意識して話すことができるようになり、人間関係形成能力の向上が見られた。

【資料8 単元末の振り返り】



(2) 平成24年度の実践内容

ア 単元 2年国語科「紹介しよう！ステキな仕事人（プレゼンテーション）」（9時間完了）

＜西浦中学校＞

イ 単元設定の理由

5月に行った3日間の職場体験学習を通して、働くことや自分が興味をもっている職業についての見方を広げた。生徒たちにとって、「社会に出て働く」という体験は、とても貴重なものとなった。しかし、将来自分がどんな職業に就きたいかが明確になっている生徒はあまり多くない。

国語科の授業では、課題に対して興味をもって取り組み、自分が自信をもてることは、積極的に発言しようとする姿勢が見られる。自分流「枕草子」を書くという活動では、オリジナリティーを出すことに意欲を示した生徒や、読み手が楽しく読めるように工夫しようとする生徒が多かった。しかし、全体場で自分の思いを表現することを苦手になっている生徒が多い。原稿に頼った発表になりがちで、聞き手を意識して話すことがなかなかできない。

本単元では、職場体験学習を通して、働くことへの見方を広げた生徒たちに、「ステキな仕事人を紹介する」という課題を設定する。身近な家族や職場体験学習で出会った地域の人などの働く姿を思い起こさせたい。互いの魅力を感じる働く人の姿を交流させることで、自分の将来や人の生き方について考えを深めさせたい。

発表の方法として、プレゼンテーションを取り上げる。資料や機器を効果的に活用して視覚に訴えながら説明する活動を通して、生徒の話すこと・聞くことへの意欲を高めるとともに、聞き手を意識した分かりやすい伝え方を学ばせたい。

ウ 単元の目標

(ア) 自分が紹介したい仕事人について、説明の仕方を工夫しようとする。 関

(イ) 聞き手に分かりやすいように、資料や機器などを効果的に活用し、話の構成を工夫して話すことができる。 話聞

(ウ) 互いの発表を聞き、説明の仕方や人の生き方について考えを深めることができる。 話聞

(エ) 発表を聞いて考えたことを、400字程度の文章にまとめることができる。 書

エ 単元構想（西浦中p.9 **【資料9】**）

オ 授業の実際と考察

(ア) 抽出生徒A

真面目な性格だが、自分から積極的にコミュニケーションを図ることは苦手になっている。将来就きたい職業は、まだ定まっていない。書いたことを読む発表はうまくできるが、聞き手に分かりやすく伝える工夫を加えながら話すことまではなかなかできない。

(イ) 学校行事や総合的な学習と関連付けた単元構想… 手だてJ・K

3日間の職場体験学習では、地域の人と関わり合いながら、「働くこと」への理解を深めた。事後学習として、自分が体験した仕事の内容、職場の方へのインタビューを通して知ったこと、体験した感想などを画用紙にまとめ（西浦中p.10 **【資料10】**）、それを基に発表会を行った。

生徒Aは、スポーツが好きなことを生かして、市内のスポーツジムで職場体験を行った。画用紙のまとめの中で体験後の感想は、「この3日間の職場体験で、仕事をする中で、（働くことの）大切さや大変さが分かりました。この体験を生かし将来へ向かっていきたいです」と書かれているだけで、どのように体験を生かしたいのかが具体的に伝わってこなかった。発表会でも、自分が体験したフロントとプールの監視の仕事の説明とやってみた感想が中心であった。生徒Aのように、「働くことの

【資料 9 単元構想】

「紹介しよう！ステキな仕事人 ～プレゼンテーション～」(全9時間)

「働く」とは、どういうことだろう (行事・総合・学活)
・職場体験学習 ・新聞づくり ・学年発表会

生徒の活動	・手だてと評価
これまで出会った「ステキな仕事人」について① 考えよう ・職場体験でお世話になった保育士さんがステキだった。 ・よく行く店の店員さんが、いつも笑顔。 ・仕事をがんばっているお母さんを紹介したいな。 プレゼンテーションって何だろう ② ・会社が商品を説明するときやるんじゃないかな。 ・学校保健委員会で講師の先生がやっていた。 ・画面に写真やキーワードを映し出ししながら、説明するんだ。 聞き手の印象に残るプレゼンテーションにする こつを考えよう ③ ・どういう言葉を書けばいいのかな。 ＜スライドづくりの極意＞ ①話の流れ 注目→説得→呼びかけ・自分の思い ②写真は絞り、印象に残る言葉だけ ③スライドを見やすくする工夫 (写真の配置 文字の大きさ 色) プレゼンテーションの準備をしよう ④⑤ ・どういうスライドにして、何を話そうかな。 ・見やすいスライドにしたいな。 ＜発表の仕方＞ ・スライド…3枚 ・発表時間…2分程度 グループでアドバイスをし合おう ⑥⑦ ・〇〇君のスライドは、言葉が多すぎるから減らした方がいい。 ・〇〇さんは、スライドを指差しながら、話すといい。 学級発表会をしよう ⑧ ・同じグループの子にアドバイスをしてもらったことに気を付けて、発表しよう。 発表会を聞いて考えたことを書こう ⑨ ・〇〇君が発表した仕事人のところが、印象に残った。 ・お客のことを大事にしている〇〇さんは、ステキだと思った。	・「ステキな仕事人」に対するイメージをふくらませるために、職場体験学習やこれまで触れ合ったことのある働く人の姿を想起させ、発言させる。 評 「ステキな仕事人」について話し合う活動を通して、自分がこれまでに出会った働く人を振り返り、紹介することへの意欲をもつことができる。(関心・意欲・態度) 手だてL ・プレゼンテーションの方法をつかませるために、教師がプレゼンテーションの実演をする。 評 ワークシートからプレゼンテーションの方法について理解できる。(話す・聞く) 手だてD・L ・スライドの構成の仕方の工夫について考えさせるために、担任の先生を紹介するスライドの内容を考えさせて、発表させる。 ・スライドの作り方への理解を深めさせるために「伝える極意」(NHK)を視聴させる。 評 プレゼンテーションのこつを考える活動を通して、「人間関係形成・社会形成能力(コミュニケーションスキル)」を評価する。 手だてC・M ・原稿を読むだけの発表にさせないように、発表原稿を書かせてから、キーワードのみ進行表に書かせる。 評 自分のプレゼンテーションを考える活動を通して、人間関係形成・社会形成能力(コミュニケーションスキル)を評価する。 手だてC・M ・グループでの話し合いが深まるように、聞き合う時のポイントを提示する。 ・生徒たちだけで話し合いが進められるようにするため、進行の仕方のプリントを配付する。 評 グループでアドバイスし合う活動を通して、「人間関係形成・社会形成能力(コミュニケーションスキル、チームワーク)」「話す・聞く」を評価する。 手だてA・B・E・H・M ・互いの発表を比べながら聞くことができるように、評価カードを書かせる。 評 プレゼンテーションをする活動を通して、「人間関係形成・社会形成能力(コミュニケーションスキル)」「話す・聞く」を評価する。 手だてE・F・G・M 評 感想を書く活動を通して、「キャリアプランニング能力(学ぶこと・働くことの意義や役割の理解)」「書く」を評価する。 手だてH・M

大変さを知った」という感想にとどまってしまいう生徒が多く、働くことの意義や自分の職業の選択まで触れた生徒はほとんどいなかった。

(ウ) 働くことの意義の理解に結び付ける題材…**手だてJ**

本単元では、職場体験学習と関連付けて、「ステキな仕事人をプレゼンテーションで紹介する」という課題を設定した。身近な家族や職場体験学習で出会った地域の人などの働く姿を見つめることで、働くことや自分の将来に対する考えを深めさせたいと願った。紹介する仕事人は、今まで出会った人の中で魅力を感じた人を選ばせた【資料11】。生徒Aは、小学校でお世話になった先生を選んだ。

(エ) 説得力のある発表を考えるの設定…**手だてC**

第2時では、生徒たちにプレゼンテーションの方法をつかませるために、教師がプレゼンテーションの実演を見せた。第3時では、

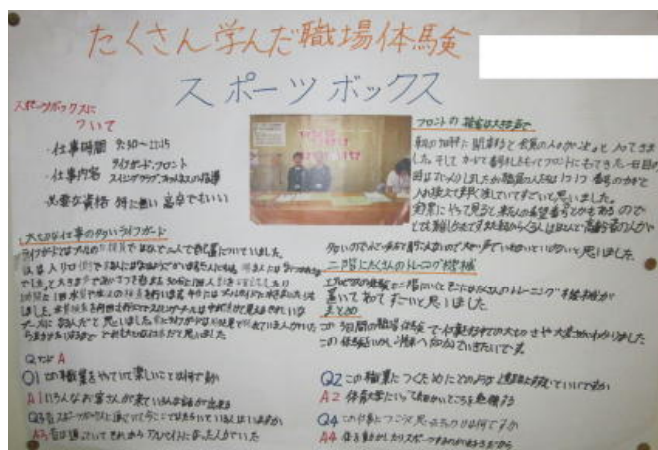
スライドの構成の仕方について考えさせるために、もし担任の先生を紹介するとしたらどんなスライドにするかを考えさせて発表させた。【資料12】のように、項目を増やしすぎて見づらくしてしまったり文で説明を書いてしまったりした生徒が多かった。

その後「伝える極意」(NHK)を視聴させ、スライドづくりのこつを【資料13】のようにまとめた。それを基に、自分が考えたスライドの見直しをさせた。言葉が多すぎたり、長すぎたり、写真を入れず言葉だけになっていたりするなどの問題点に気付くことができた。

(オ) 進行表を基にした発表…**手だてD**

プレゼンテーションは、3枚のスライドを使い、2分程度の発表をすることにした。原稿を読むだけの発表にならないように、発表原稿を書いた後で、西浦中p.11【資料14】のような進行表を書かせた。発表する内容を文ではなく、キーワ

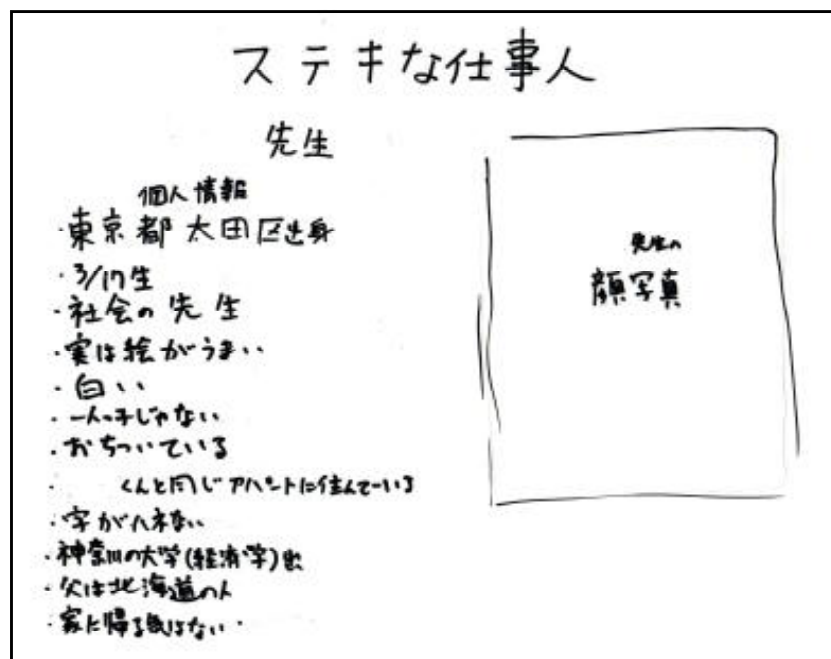
【資料10 生徒Aの画用紙のまとめ】



【資料11 生徒が選んだ仕事人】

- ・職場体験でお世話になった人…8人
- ・家族…9人
- ・地域で働く人…9人
- ・その他…1人

【資料12 生徒が考えたスライド】



【資料13 スライドづくりの極意】

- ①話の流れ
注目→説得→呼びかけ・自分の思い
- ②写真はしぼり、印象に残る言葉だけ
- ③スライドを見やすくする工夫
(写真の配置 文字の大きさ 色)

ードだけを箇条書きにするように指示した。初め、生徒たちは、この進行表を見て発表することに不安を感じているようであったが、グループ発表では、言葉が出ずに間が空いてしまうことはなく、自分なりに言葉をつながながら発表することができた。中には、この進行表にも頼らずにスライドの言葉を見ながら発表できた生徒もいた。

(か) グループで発表し合い、

相互評価する場の設定…**手だてA・B・G・H**

学級発表会の前の第6～7時では、グループで発表を聞き合い、互いにアドバイスをし合う場を設定した（西浦中p.12【資料17】）。この活動を通して、他の生徒のよさを見付けたり、自分の発表の足りない部分に気付いたりすることで、よりよい発表にしたいという意欲をもたせたいと考えた。1人の発表に対するグループの話し合いの時間は7分とし、進行役は、ローテーションで全員が務められるようにした。話し合いの進め方をプリントで明示し【資料15】、生徒たちの手で話し合いが進められるようにした【資料16】。同じグループの生徒からアドバイスをしてもらったことは、メモしておくように指示した。

この短い時間の中で、有効な話し合いができるように、評価の観点を、資料（スライド）の見やすさ、内容の分かりやすさ、聞きやすい話し方の3点に絞り、それに基づいて検討できるようにした。授業の最後に、自分の発表について直したいことや気を付けたいこと、グループの生徒の発表を聞いて取り入れたいと思ったことを振り返りカードに書かせた。

生徒Aは、スライドに仕事人の写真を入れ、キーワードを絞って見やすく構成することができていた。内容面で、発表の最後が、「いろんな人と親しくなりたいです」という簡単なまとめで終わっていることをグループの生徒から指摘された。「もっと詳しくした方がいい」とアドバイスをされ、西浦中p.13【資料18】の感想にあるように、最後のまとめをもっと細かく書こうという意欲を

【資料14 プレゼンテーション進行表】

プレゼンテーション 進行表 二年 A組 番 名前		
① ～ すてきな仕事人 ～ 葉宮 祥太 印象 「いつも笑顔、やさしい」 おたけが、話しやすい	② ～ すてきなところ ～ 葉宮 祥太 「おたけのモテたポイント」 印象 「いつも笑顔、やさしい」 おたけが、話しやすい	③ ～ すてきなところ ～ 葉宮 祥太 「おたけのモテたポイント」 印象 「いつも笑顔、やさしい」 おたけが、話しやすい

【資料15 グループ活動の進め方】

グループ活動の進め方	
<進行役のセリフ>	
1 発表者のプレゼンテーション	〇〇君・さん プレゼンテーションをお願いします。
2 発表のよかったところ	〇〇君・さんのプレゼンテーションのよかったところを書いて下さい。 ※挙手制 全員一ツは言う。もし、言っていない人がいたら、指名する。 「〇〇君・〇〇さんは、どうですか？」
3 発表者からみんなに相談したいこと	〇〇君・さん、グループのみんなに相談したいことを書いて下さい。 〇〇君・さんは、「～」ことを相談してほしいと言っていました、何かいいアドバイスはありませんか。 ※挙手制 しばらく待っても意見がでなかったら、指名。
4 その他のアドバイス	他に、アドバイスを言って下さい。
5 評価シートに記入	タイマーが鳴ったら

【資料16 グループでの話し合いの様子】



【資料17 第6時学習過程】

学 習 活 動	時 間	指 導 上 の 留 意 事 項
1 本時の学習課題をつかむ。 さらによい発表になるように、グループごとに発表し合おう	5	○生徒たちが、見通しをもってスムーズにグループ活動を進められるように、進行の仕方を提示する。 ○朗読の仕方に注意して聞き合うことができるように、聞くときのポイントを確認する。 ①資料（内容・提示するタイミング） ②話の構成 ③話し方
2 グループごとに発表を聞き合い、アドバイスをし合う。 ※1 グループ9名，発表者5名 ○1名の発表につき，グループでの話し合いは，発表を含めて7分で行う。 (1) 発表する。 (2) 発表者が，うまくいった点，アドバイスしてほしい点を伝える。 (3) 聞き手から，よかった点やアドバイスを伝える。	45	○事前にペア（発表者とパソコン操作をする生徒）で打ち合わせをさせておく。 ○進行表（進行役の言葉・ローテーションの仕方）を配付し，進行役をローテーションで全員にさせる。 ○聞き手には，最低一つは意見を言うように指示する。 ○発表者には，聞き手から出されたよかった点やアドバイスをメモしながら聞くように指示する。 ○時間内に全員が発表できるように，タイマーを使って，時間を区切らせる。 評 グループで発表し，アドバイスし合う活動や，ワークシートを通して，「人間関係形成・社会形成能力（コミュニケーション・スキル，チームワーク）」「話す・聞く」を評価する。
3 本時を振り返る。 (1) グループ活動を振り返り，参考になったアドバイスや他の生徒の発表の工夫，自分の発表で直したい点をワークシートにまとめる。 (2) 次時のめあてをつかむ。	50	○2～3名に発表させる。自分の発表で直したい点についてまとめた生徒1名，他の生徒の発表の工夫についてまとめた生徒1名に，できるだけ発表させる。 評 ワークシートにまとめる活動から，「課題対応能力（評価・改善）」「キャリアプランニング能力（学ぶこと・働くことの意義や役割の理解）」「話す・聞く」を評価する。

評価も見られ、本人の自己評価と合致していた（西浦中p.13【資料22】）。話し方については、やや課題が残ったものの、スライドを工夫し、進行表を見ながらスムーズに話すことはできたので、おおむね目標を達成したと判断する。

(キ) 単元の振り返り…**手だてH**

第9時では、評価カード

【資料23 発表会を聞いて考えたこと（一部抜粋）】

のメモを基に学級発表会を通して考えたことを400字程度の文章に書かせた【資料23】。生徒Aの文章に「大切なのは笑顔と優しさだと思いました」とあるように、紹介された仕事人の共通点を挙げながら、「働く」ことへの自分の考えを述べる生徒が多かった【資料24】。

また、「それぞれの仕事人のいいところを自分も取り入れていき」（生徒A）
「私もそんな人たちのように、『誰かのために動ける人』になりたいな」（生徒B）のように、今後に生か

していきたいという感想も多く見られた。生徒Bのように、他の生徒の発表を聞いて印象に残った仕事人を挙げながら考えを述べた生徒も多かった。生徒たちが学級発表会を通して、働くことについての考えを深めたことを読み取ることができた。

単元を終えて書かせた振り返りカードの中で生徒Aは、「レベルアップできたこと」として、「メモを基に自分の言葉で言うこと」を挙げた【資料25】。原稿に頼らない発表が初めてだったので、多くの生徒がこれを挙げていた【資料26】。他にも、「スライドの構成の仕方」「人前で話すこと」など、伝える活動で成果を感じていることが分かる。

・僕はみんなの仕事人の発表を聞いて仕事人に大切なのは笑顔と優しさだと思いました。（中略）優しさは全般的に多くて、人と触れ合ったり、助けたりする気持ちだと思います。また、それぞれの仕事で、人との触れ合いが大切な仕事もあるので、優しさも大切さだと思いました。（中略）それぞれの仕事人のいいところを自分も取り入れていき、将来役に立つたらいいいと思います。（後略）

〔生徒A〕

・それぞれが発表した仕事人の人たちには、それぞれ大変なことがあります。例えば保育士さんは意外と重労働だったり、D君のおばあちゃんの起床の早さには、驚きました。それでも、誰かのために、身をけずって働いていると思います。私もそんな人たちのように、『誰かのために動ける人』になりたいなと思いました。

〔生徒B〕

【資料24 仕事人の共通点】

＜生徒が見付けた仕事人の共通点＞

- ・笑顔 ・優しさ ・周りへの気遣い
- ・仕事に誇りをもつ
- ・楽しみながら働く
- ・人に喜ばれる ・人の役に立つ

【資料25 学習の振り返り】

☆学習を通して、レベルアップできたことやわかったこと

今までの発表では文章と読み取りの練習を
もとに自分の言葉で言うことか、また、
他人の紹介としてその人のキーワードのこ
ろをまとめるのが大切だとわかりました。

プレゼンという今までなかったことと、
場でも使うことか、また、自分の意
見もつけて、それをもとに自分の言葉で
伝えることが、また、このプレゼンの
授業をやりたかったです。

【資料26 本単元での成果】

＜レベルアップできたことやわかったこと（振り返りカード）＞

- ・メモを見て話すこと…8人
- ・人前で話すことに慣れた…5人
- ・スライドの構成の仕方…5人
- ・スライドの作り方…3人

5 研究のまとめと今後の課題

(1) 成果

ア 人間関係形成・社会形成能力の向上

- ・パネル・ディスカッションやプレゼンテーションという伝え合う活動は、生徒にとって目新しい

ものであり意欲的に取り組むことができた。伝え合う活動の楽しさを感じたり、さまざまな視点からの発表を聞くことで、見方を広げたりすることができた。

- ・原稿をそのまま読むのではなく、メモを基に発表させたことは、生徒に話すことへの自信をもたせることにつながった。
- ・聞くときのポイントを明確にしたり、ワークシートにメモ欄を設けてメモの取らせ方を工夫したりしたことで、他の生徒の意見を踏まえながら考えを述べる姿が見られた。
- ・グループで相互評価する場面を設定したことで、他の生徒のよさを見付けたり、他の生徒からのアドバイスを受け入れたりして、よりよい表現にしようとする姿勢が見られた。
- ・キャリア教育アンケート結果を見ると、「他者の個性について理解している」「他者に配慮しながら自分の考えを伝えている」に対して「当てはまる」と回答した生徒が増えており、「人間関係形成・社会形成能力」の高まりが見られた（西浦中p. 16【資料27】）。

イ キャリアプランニング能力の向上

- ・修学旅行や職場体験学習といった学校行事への取組みと関連付けながら、「東南海地震」「身近な仕事人」という地域に根ざした題材を設定したことで、地域の問題や人々に目を向けることができ、社会の一員として自分がすべきことや働くことについて考えを深めることができた。
- ・キャリアアンケート結果を見ると、「働くことの意義や役割について理解している」「将来の自分についての見通しを立てている」で、「当てはまる」と回答した生徒が増えており、「キャリアプランニング能力」の高まりが見られた（西浦中p. 16【資料27】）。

(2) 課題

- ・国語科の「話す・聞く」活動において、生徒が自分の生き方について考えを深めることができる題材をさらに開発していきたい。
- ・グループでの話し合いやパネル・ディスカッションでは、生徒たちの手で進めさせるようにしたが、まだまだ効果的に話し合いを進めるところまでには至っていない。今後、話し合い活動を重ねることで、課題解決に向けて効果的に話し合いを進行させる力を身に付けさせていきたい。
- ・「人間関係形成能力」「自己の果たす役割についての認識」を高めるためには、継続的な取組みが必要である。三年間を見通した指導を考えていきたい。

6 おわりに

国語科で育成する「伝え合う力」は、キャリア発達にかかわる基礎的・汎用的能力の「人間関係形成・社会形成能力」だけではなく、その他の能力の基盤にもなる。今回の実践を通して、学習指導要領で示された「実生活で生きてはたらき、各教科等の学習の基本ともなる国語の能力を身に付けること」が、キャリア教育の推進につながることを実感した。このことを意識しながら、今後も実践を積み重ねていきたい。

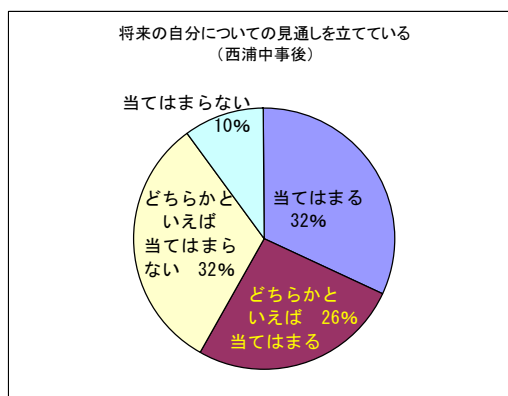
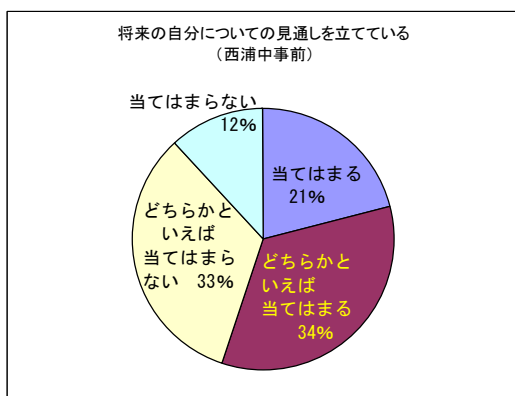
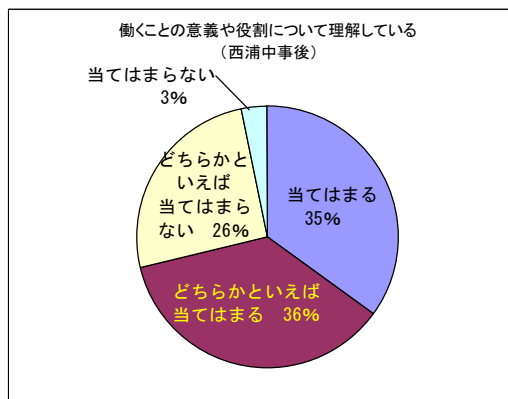
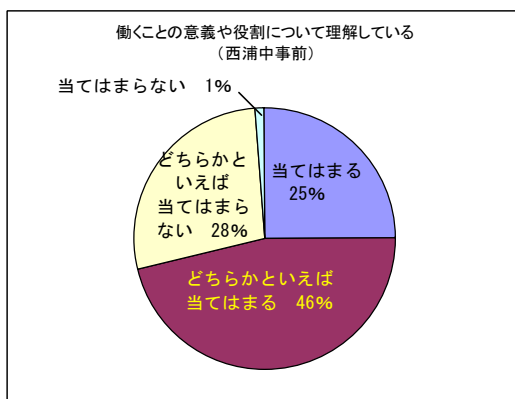
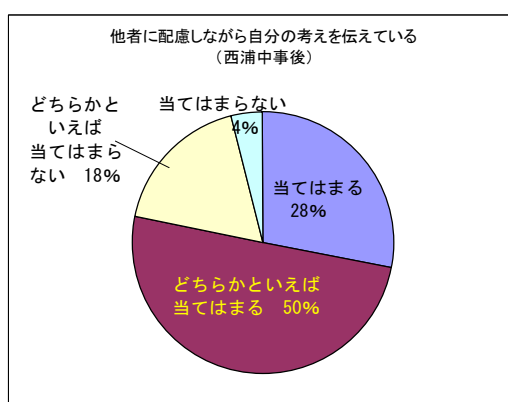
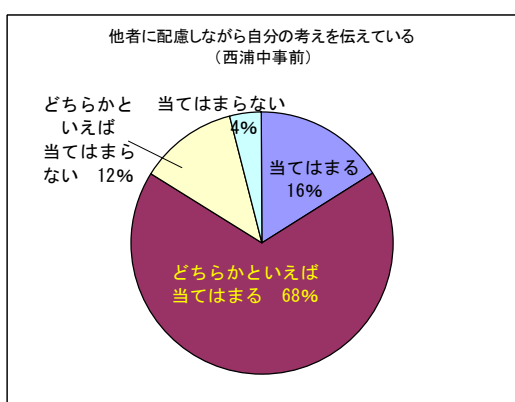
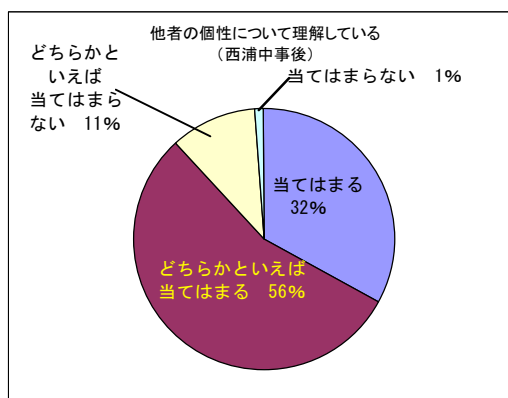
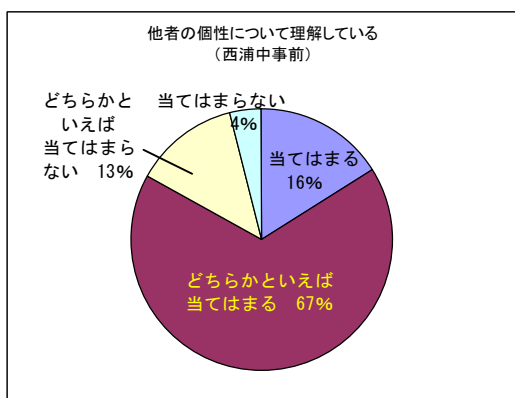
【資料27 キャリア教育アンケート結果（西浦中学校生徒）】

※事前 6月 事後10月に実施

※ 1年25人

2年26人

3年24人



一年	期	前 期					後 期					
	月	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
	教科・内容	「中学生になって」	デイキャンプ	国語 「分かりやすく説明しよう」	部活動激励会	体育大会	自分を知る	文化祭 合唱コンクール	はあとぷろじえくと	働く人々の仕事と考え	名古屋分散学習	「反省と2年生の準備」
		新年度の具体的な目標を考える。	仲間と協力し、よりよい集団にしていこうとする意欲を高める。	説明する観点を決めて、分かりやすく伝える方法を考える。	自分の役割を考えて、協力しようとする態度を育てる。	目標に向かって、仲間と協力することの大切さを知る。	自分の個性を理解しようとする気持ちを高める。	一人一人が役割を果たし、目標を実現しようとする気持ちを高める。	地域のお年寄りとの交流を通して、地域での自分の役割への認識を深める。	身近な人の仕事について調べ、「働くこと」への理解を深める。	自分たちの力で計画し、実行する力を高める。	自分を見つめ直し、来年度に向けての目標をもつ。

二年	期	前 期					後 期					
	月	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
	教科・内容	「2年生になって」	職場体験学習	国語 「紹介しようステキな仕事人」	部活動激励会	体育大会	自分を知る	文化祭 合唱コンクール	はあとぷろじえくと	自然教室	進路計画の検討と吟味	「反省と3年生の準備」
		新年度の具体的な目標を考える。	働くことの意義や働く人の思いについて理解を深める。	分かりやすく伝える方法を考え、発表する。	自分の役割を考えて、協力しようとする態度を育てる。	目標に向かって、仲間と協力することの大切さを知る。	自分の個性を理解しようとする気持ちを高める。	一人一人が役割を果たし、目標を実現しようとする気持ちを高める。	地域のお年寄りとの交流を通して、地域での自分の役割への認識を深める。	自分たちの力で計画し、実行する力を高める。	自分にふさわしい進路について考え、進路計画の見直しをする。	自分を見つめ直し、最上級生になる自覚をもつ。

三年	期	前 期					後 期					
	月	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
	教科・内容	「3年生になって」	修学旅行	上級学校について調べよう	進路先について知る	体育大会	国語 「自分の魅力を伝えよう」	文化祭 合唱コンクール	はあとぷろじえくと	受験準備と試験の受け方	就職や進学への準備	卒業にあたって
		新年度の具体的な目標を考える。	企業訪問を通して、職業についての理解を深める。	進路選択に必要な情報を集める。	学校説明会や体験入学を通して、上級学校について知る。	目標に向かって、仲間と協力することの大切さを知る。	記者会見型スピーチを通して自分の魅力を伝える方法を考える。	一人一人が役割を果たし、目標を実現しようとする気持ちを高める。	地域のお年寄りとの交流を通して、地域での自分の役割への認識を深める。	進路の最終選択をし、受験に備える。	面接練習を通して、自己PRについて考える。	卒業後の生活に向けての抱負を書く。